



雁鳴くや秋ただなかの読書の灯

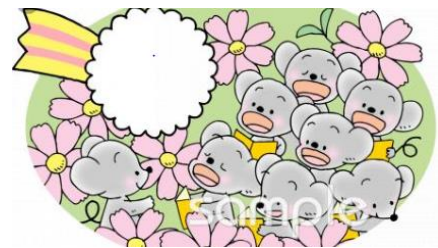
飯田 蛇笏

関 宣也

朝夕のヒンヤリした空気で、秋の深まりを感じる今日この頃。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、原中学校の文化祭は、無事成功の内に終えることができました。

開・閉祭式や展示発表に工夫を凝らし充実した内容に仕上がったと思います。そして、文化祭のメインイベントの『合唱コンクール』では、どのクラスも生徒と担任が心一つになって創り上げた合唱を会場いっばいに響かせました。いつもながら生徒たちの可能性とパワーには脱帽です。



さて、今年も11月5日(火)～8日(金)の間、原中読書週間を設定しました。皆さんの読書量が増え習慣化されること、学校図書館の利用がもっと広がることを目的としています。

読書をしている人は、ボキャブラリーが豊富です。本を読むことで、ふだんはあまり使わない言葉や言い回し、表現方法等を自然と自分のものにすることができます。もちろん、これは、一冊読んだだけでは身に付きません。読書を習慣化することで、自(おの)ずとボキャブラリーが増え、自分の思いや考えを表現する力が豊かになっていくのだと思います。また、本を読み進める中で、しだいに登場人物に感情移入し、その人になりきってハラハラ・ドキドキしたり、一喜一憂したりする想像力も養うことができます。

読書は語彙力をUPさせ、想像力を豊かにし、そして新しい発見を得るチャンスであることには間違いありません。

海外のある作家の方がこんなことを言っていました。

『発見の旅とは、新しい景色を見ることではない。
新しい目で見ることだ。』



人は年齢を重ねるごとに先入観が育ち、今までの自分の体験に頼って世界を見ようとします。本当は目の前にワクワクすることがあるのに、聞く耳をもたなかったり、新しいチャレンジが億劫になったりして自分で人生をつまらなくしてしまっていることに気づけません。ワクワクした人生を歩むためには、意識して心を動かすことです。あえて今までの自分とは違うことをしてみると、今まで知らなかったことを知ることができ、新しい世界が一気に開けます。

読書とはまさに『知らないことを知る』身近にある、誰でもできる最高の手段です。そして、それをきっかけにあなたの生活をもっと豊かにしてくれると思います。



文化祭

原中学校文化祭は49回目を迎え、今年度も実りある文化祭を目指して、日々委員や有志の生徒で準備を進めてきました。

今年度の全校制作は、来年、2020年がオリンピック、パラリンピックイヤーということで、万国旗の制作に取り組みました。各クラス6グループに分かれ、布にそれぞれの国の旗のデザインを描き、着色をしました。開祭式、閉祭式の時には、体育館に万国旗を色鮮やかに展示しました。

文化祭の開祭式では、文化委員と有志の生徒が中心となり、企画運営を行いました。有志の人には、オープニングダンスと劇に参加してもらいました。ダンスは選曲から練習まで、3年生を中心に考え、みんなでパフォーマンス



文化委員・万国旗準備

の向上を目指しました。劇では、生徒会本部役員が脚本を書き、それを監督の指示のもと、道具を作ったり役者が演じたりして年明けに行われる百人一首大会にもつながる劇に仕上げました。

合唱部門では、今年も選曲から練習までパートリーダーや指揮者、伴奏者を中心に自主的な練習を重ねてきました。横浜みなとみらいホールという大舞台上、どのクラスも思いのこもった歌を歌いあげました。合唱部の歌声にも会場が酔いしれていました。

広報部門では、今年度から文化祭新聞やカウントダウンカレンダーに加えて、横断幕の制作を行いました。係生徒の「地域の方にも文化祭のことをもっと知ってほしい」という強い思いから新しい取り組みが生まれました。

本年度も原中生の素晴らしい姿がたくさん見られた文化祭になりました。これからもみなさんの活躍に期待しています。

(文化祭担当 豊井 彩絵)



文化委員・展示準備

文化祭 開・閉祭式

今年度の文化祭開閉祭式では、「みんなが“トリコ”になるような令和最初の笑顔あふれる文化祭にしよう」というテーマで行いました。

開祭式の本番に向けて「ダンス」と「劇」は3年生と生徒会の本部を中心に計画を立て、内容を構成し、練習を進めて行きました。「ダンス」は15分間という持ち時間の中で3年生のダンス有志の生徒が曲決めや編集を行いました。夏休みの間もリーダー



の生徒を中心に練習を行い、当日は躍動感あふれる素晴らしいダンスを披露することができました。

「劇」は、全校生徒が知っているものにしようということで生徒会本部を中心に脚本を考え、合唱だけでなく次の百人一首につなげるということで「ちはやふる」をモチーフに創作しました。ダンス・劇ともに全員が練習に参加できないときもありましたが、練習を重ねるごとに上達していきました。有志生徒で結成された道具係も取り札や背景などを工夫していいものが完成しました。

また閉祭式では各学級のVTRを流すことにより、一人ひとりが振り返りをできまじや。盛り上げてくれた全校のみなさんありがとうございました。

(開閉祭式担当 夏目 嵩也)



天井には全校制作の万国旗

文化祭 合唱コンクール

今年も原中生の歌声がみなとみらいホールいっぱいに響きわたりました。どのクラスも、本番を迎えるまでの日々の中で、いろいろな出来事があったことでしょう。ここには書き尽くせないくらいの辛さ、歯がゆさ、ジレンマ、疲労感、そして不安。それを乗り越え、すべてのクラスが自分たちの色で会場を包み、聴く人の心に届く合唱にたどり着くことができました。原中生全員に改めて大きな拍手を贈りたいと思います。

トップバッターは2年生。迫力ある歌声は学年合唱からエンジン全開。自由曲も完成度が高く、コンクールのスタートを頼もしくリードしてくれました。続いては初参加の1年生。まだ声が安定してない時期特有の、透き通った歌声で聴く人を癒してくれました。そして最後を飾る3年生。難しい曲に立ち向かう姿に勇気もらい、一体感あふれる歌声には大きな感動をもらいました。

コンクールの運営に携わった文化委員をはじめ、パートリーダー、指揮者、伴奏者の皆さん、全パートのみなさん、先生方、本当にお疲れさまでした。前に立つリーダーがいて、それを支える人がいれば何でもできます。原中の合唱の素晴らしいバトンをこれからも引き継いでいきましょう。

最後になりましたが、本番やリハーサルに足を運んでくださった保護者の皆様、来れずとも家で愚痴を聞いたり、励ましたり、気にかけてくださった保護者の皆様、本当にどうもありがとうございました。

(文化委員会担当 井手 英恵)



合唱部の発表

今年合唱部が合唱コンクールで演奏した曲は、「いつだったか」「君の隣にいたいから」「リフレイン」アンコール「ふるさと」の4曲です。「いつだったか」は、去年演奏した「今日もひとつ」の組曲の中にある曲です。「君の隣にいたいから」は今年のNコンの課題曲でした。SHISHAMOの宮崎朝子さんの作詞作曲で、去年に比べポップス色が強く、速いテンポに3パート揃えて歌うことが難しい曲でした。また、テンポが速いため地声になりがちになってしまうという夏のコンクールからの反省をいかし、練習してきました。「リフレイン」は8分の6拍子の流れや、優しく、「このときは たったいま、このいまは いちどだけ」という大切なメッセージを部員一人一人が考え、歌に乗せて伝えられるよう歌いました。



「今年もそらまめ歌いますか？」とたくさんの人に顧問も部員も声をかけられました。今年はほかにも歌えます！というところをぜひ聴いていただきたく「ふるさと」を選びました。去年歌った「そらまめ」が皆さんの心にまだ残っていることも嬉しかったです。3年生を中心にアンコール、ありがとうございました。3学年一緒に演奏する最後の機会でしたが、日ごろの練習の成果がみなとみらいホールに響いたと思います。3年生が引退し、寂しく心細さもありますが、またアンコールをいただけるような歌、ホールいっぱいに響く歌声を皆さんに届けられるよう、今後も練習を重ねていきたいと思ひます。

(顧問 二階堂夏帆 諏訪部紀子)

合唱コンクールを終えて ～音楽科より～

みなとみらいホールで皆さんのきれいな歌声が響き、とても素敵な時間を過ごせました。また、普段の様子とは違った、少し緊張した姿や、真剣な姿を見て、頑張ってきたんだな、カッコいいなと思いました。

2年生はトップバッターとして、緊張もしたことでしょう。去年よりさらに難しい曲に挑戦し、混声3部合唱を作り上げました。どのクラスも、生き生きと歌っていたのがとても印象的です。歌が好きで、歌うことが楽しい！という雰囲気が歌から伝わってきました。ぜひ来年は3年生として、1・2年生のお手本となるような合唱を作りあげられるよう頑張りましょう。皆さんならできるはずです。

1年生のみなさん、はじめての合唱コンクールはいかがでしたか？これまで自分たちでたくさん考え努力して練習してきたと思います。歌ってみてどうですか？来年はその経験を生かし、合唱をしっかり作り上げられるような2年生になってください。

そして3年生。1.2年生の時とは比べ物にならないほど難しい曲を歌いました。しかも2曲も。長い期間よく頑張りました。みなさんがステージに上がる時、私の方が緊張してしまいました。でもそんな私の緊張など吹き飛ばすくらいの歌が全クラス、ホールいっぱい響いて、涙が出ました。3年生は卒業式でも合唱をします。学年としてさらに良い発表ができるように、この経験を生かして頑張りましょう。



今年、私が感動したのは、各学年の学年合唱です。300人近い人たちと一緒に歌うなんて、そうそうできる経験ではありません。皆さんは当たり前のように歌っていましたが実は、伴奏に合わせて、指揮をみたり、隣の人と同じ音を歌ったり、違うパートの人を聴きながら歌ったりと、いろいろな力を身に付けて歌っています。すごいことだと思いませんか？友達と、クラスの人と、同じ学年の人と、一緒に歌うって素敵なことだと思いませんか？きっと気持ち良かったと思いますし、みなさんが楽しんで歌っていることが、私にも伝わってきたのだと思います。大勢の人と声を合わせて歌うことは、気持ち良い、楽しい！となればもっとうまくなりたい！という気持ちも芽生えるはずです。言葉の言い方、息の吸い方、強弱、気を付けることがたくさんで、リズムも難しくて…と果てしないように思えてくじけそうになるかもしれませんが、皆さんは知恵を出し合い、考え、協力し助け合い、この1～2か月で学年合唱も、クラス合唱も作り上げたのです。そのことに自信を持ってほしいです。

最後に、私は賞を取る事が全てではないと思っています。本来音楽は競うものではありません。みなさんが、聴いていただく人に少しでも気持ちを伝えたい、美しい音楽を届けたい、幸せな時間を共有したい、クラスの皆で協力して歌おうという気持ちを、音楽で表現することができると良いなと願っています。

クラスには音楽が好きな人、嫌いな人、歌は苦手だなと思っている人も一緒に練習をして、本番で発表できたことは素晴らしいことです。これまで、指揮者、伴奏者、パートリーダーの人たちは見えないところでたくさん努力してきました。クラスをまとめるのは大変だったと思いますが、その分きっと自分の成長につながっているはずですよ。



苦勞した人、迷惑をかけた人、頑張った人、ひとりひとりが、クラスでそれぞれ合唱コンクールに向かって取り組んできたことが成長となり、これからの力となり、みなさんの思い出となります。ぜひそのことを忘れずに、これからも楽しく音楽をしましょう！

(音楽科：二階堂 夏帆)